揖斐川町学校教育の在り方審議会
おじま幼児園保護者との意見交換会（議事録概要）

１　日　時　令和８年２月25日（水）　＜開会＞15時00分　＜閉会＞16時00分
２　場　所　おじま幼児園　遊戯室
３　出席者
　　審議会委員　徳永 恵理奈、中島 勝義
　　事　務　局　教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏
　　保護者・家族　14人
　　幼児園教員　５人

４　次　第
（１）挨拶＆概況説明
・　徳永委員より、開会の挨拶を行う。
・　教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

（２）意見交換
参加者：私自身６人のクラスに通っており、少人数でよかったところもあるが、今となっては大人数の学校であれば人間関係や選択肢の幅が広がったのではないかと思っている。子どもの人数が少なくなってきている以上、恐らく近い将来に学校統合が行われるのではないかと思うが、様々な人と交流できる何かがあればよい。
参加者：昨年度春日小が閉校し、上の子が今小島小に通っている。統合前の全校生徒は９人で、子ども同士の上下のつながりは強かったが、同学年の子どもが少ないことにより集団生活について学べていないように感じていた。統合する際に春日小と小島小の交流はたくさん行われたが、最初は人数が多くなったことでうるさくなった、集中できないという問題も起きていた。ただ、まもなく１年が経つ今では、友達が増えたり関係性が広がったりしたことで楽しさに変わり、親として見る限り春日小にいた時よりいきいきしているように感じている。
また、幼児園についても、他の校区から通っていた子どもが小学校入学に向けて退園されることなどもあって人数が少なくなったため、集団行動ができるほうがよいという保護者の思いから、小学校と同じように今年度の４月からかすが幼児園からおじま幼児園に通うことになった。初めは打ち解けるのが難しいのではないか、嫌がるのではないかと思っていて、実際にそういう時期もあったが、子どもはやはり環境に慣れるのが早く、今は楽しそうに通ってくれている。幼児園も小学校も統合前に双方の交流をしてくださっていたということもあると思うので、統合前にそうした連携があると保護者としても子どもとしてもスムーズに慣れることができるのではないか。
参加者：ほぼ同様の内容だが、私の子どもは春日地区の同学年の中で唯一の女の子であり、同年代の女の子がいないことで、中学校進学後に人間関係で苦労するのではないかと心配していた。小島小との統合により、最初は戸惑っていたと思うが、次第に友達ができて適応してくれているのだろうと感じている。今後どういった流れになるかはわからないが、子どもたちと保護者のことを第一に考えて進めていただけるとよい。

参加者：教育の内容について、例えば小学校で高齢者とふれあう機会が少ないと感じている。私が小学生の頃には、高齢者を学校に呼んでしめ縄作りの授業などをやってもらっていた。今も地域の方々がそういった会を行っているかもしれないが、土日だと習い事等で時間がないということもある。高齢者から子どもたちに何かを教えていただくことで、近所の方とのつながりが広がるということもあると思うので、そういった授業をやっていただけるとありがたい。

教育長：今の教育の内容に関する意見について、小学校の取組みの状況を委員からお聞きしたい。

委　員：例えばミシンの授業や田んぼに関すること、畳を使った小物作りなど、恐らくどこの学校でも地域人材に授業への協力をお願いしており、各小学校で人材の募集を行っていると思うが、皆様お仕事等で忙しいという事情もある。ただ、地域の方とのつながりはどこの学校も大事にしており、もっと充実してほしいという意見については他の学校の先生とも共有していく。

教育長：幼児園ではどうか。

委　員：かつては地域の方に茶道を教えていただくことや、地域の老人クラブの方に来ていただくということもやっていたが、コロナ禍を機に縮小してしまったところはある。ただ、そういったボランティア団体の方が来てくださることや祖父母参観などといった機会に幼児園に来ていただくことはあり、また園によっては書道を地域の方に教えていただくなどといったことに取り組んでいるところもある。

参加者：町からのアンケートを見させていただいたうえで、この会の話を聞き、小学校同士が統合するということなのかと考えたが、どのように考えられているのか。

教育長：選択肢としては統合することも考えられるが、皆様の意見を聞きながらどうするべきか決めていく段階である。

アンケート調査の話があったが、その結果を紹介すると、保護者世代の30～40代の皆様やもう少し上の世代の方は複数クラスがあった方がよいという意見が多いという結果だった。一方、子どもたちにたずねた結果について、大勢の中で暮らした経験があまりないこともあり、小学生は２～３クラスがよいという意見は少なかった。ただ、中学生については３クラスがよいという意見が一番多かった。

次に、１クラスあたりの人数については、11～20人くらいがよいのではないかという意見がほとんどだった。今の揖斐川町の児童生徒数を平均すると１クラス17人ほどであるため、現状の人数は子どもたちの希望と合致しているように感じている。

参加者：私の一番下の子どもは４人のクラスに通っていたため、決まった友達しかおらず、その子とトラブルがあると友達がいないというような環境だった。そうした経験から考えると、配付資料の１ページの表の人数ではかなり厳しく、できれば統合して友達の人数は多いほうがよいのではないかと思う。ただ、そうすると小学校は新しく建てるのか既存の施設を使うのか、駐車場は広く確保できるのか、家からの距離はどの程度になるか、などの様々なことが頭に浮かんでくる。統合するのであれば、通学バスで迎えに来てもらうにしても各地区を回ると時間がかかると思うので、早朝マラソンや早朝読書といった活動は止める、始業時刻を少し遅くするなど、子どもたちの体調に影響が出ないよう、朝の時間に余裕が持てるような時間設定にしていただけるとよい。

教育長：アンケート調査や地区集会の中で一番心配の声が上がったのが登下校の問題で、仮に小学校や中学校を１校とした場合には全児童生徒が集まるために通学バスを使うこ

とが必須になるが、どうやって通学バスを走らせるのかというご意見が多く寄せられた。現状の話をすると、今一番通学バスの時間がかかっているのは坂内から北和中に来てくれている子どもたちで、およそ45分かかっている。また、谷汲でバス通学をしている子どものうち、一番遠い子はおよそ40分かかっている。さらに、久瀬の子どもたちの中にはバスを乗り継ぐ必要がある子どもたちもいる。そういった状況もあるため、統合する場合にはどのように通学バスを走らせるのかということも考えることが必要である。

参加者：統合する場合、どのあたりに学校を建てるのかという案はあるか。

教育長：学校の数についても含め、どこに建てるのかに関する意見は出ていない。

参加者：まだ先の話ということか。

教育長：それほど遠い未来ということではないが、結論が出ていないためここでお伝えすることができない状況である。ただ、現状の出生数や子どもの人数から考えると、あまり時間をかけてはいられないという思いはある。

参加者：私は職場が谷汲にあり、車で通勤する際に谷汲小や谷汲中の子たちが横断歩道を渡るのを待っていると、通り過ぎた後に誰もがお辞儀をしてくれる。こういうことが大きくなってからも生かされていくのだろうと感じており、勉強はもちろんだがそういった人間性の部分もこれからも伸ばしていただきたい。

参加者：私は大垣市の上石津出身だが、上石津では小中学校が統合して上石津学園というものになっている。姉の子どもが上石津学園に通っており、もともとその子が通っていた学校はそれなりの規模があったが、同性が少なく人間関係について悩みがあった。統合して人数が増えたことにより、新しい人間関係が増えてよくなったという話は聞いている。

だが、小島小は１年生と６年生が36人の学級とのことで、１年生と成長した６年生では同じ人数でも学級の狭さが異なるのではないか。学級の大きさは変えられないとは思うが、統合する場合に１クラスの人数が多くなると、感染症が流行している時期に一気に大きく広がってしまうのではないかと心配している。

また、登下校について、今でも徒歩で通学している場合に朝７時過ぎに家を出ている小学生がたくさんいると聞いている。夏は異なるかもしれないが、現代の酷暑の中を子どもに徒歩で通わせるのは心配なので、バス通学にしていただけるとありがたい。

教育長：１点目に、上石津の例を出していただいた。上石津学園は義務教育学校という、小学校１年生から中学校３年生までの９学年の子どもたちが一つの学校で学ぶ形態である。これにより、他の学年との交流の機会が増えることやいわゆる中１ギャップの防止に効果があるのではないかと言われており、我々もそうした取組みについて学んだところである。

２点目に、教室の問題について、１クラスの人数は国が定めており、市町村ごとに設定することはできない。ただし岐阜県では、１学年36人になれば２クラスになり、１クラスあたり20人程度になるため、そうなるような子どもの人数であればちょうどよいのではないかという思いもある。こうした人間環境や物的環境が子どもに与える影響は大きく、今日は話題に挙がらなかったが学習面では先生の専門性という点も影響が大きい。学校の規模が小さくなると先生の人数が少なくなるため、例えば中学校では教科ごとの専門免許を持った先生をすべて配置することができない、ということになる。そういった観点からも、一定程度の規模があったほうがよいのではないかと考

えられる。

３点目に、登下校のことを心配された。学校の通学距離については、小学校はおよそ４km、中学校はおよそ６kmで設置するという基準があるが、揖斐川町はそれより大幅に遠い距離となっている。そのため、久瀬や谷汲、坂内、藤橋、春日などの遠方となっている児童についてはバス通学としている。そういった観点からも、揖斐川町の広い町域のどこに学校を設置するのかについては慎重に考えなければいけないと感じている。ただし、もちろん統合する場合には必要に応じてバス通学ということになり、その場合には熱中症対策や防犯といった安全面での効果も期待できると考えている。

参加者：統合する場合について、最も早くて何年後になる想定か。

教育長：この場では具体的な時期についてお答えすることは難しい。現在、子どもの人数が今後どのように推移するか推計しており、その変化のタイミングを見ながら検討していく予定である。ただし、その時期等について何か意見があるということであればお聞かせいただきたい。

参加者：具体的な意見があるわけではなく、ランドセルや帽子、制服等が指定されていると思うので、統合してそのあたりが変わるタイミングに子どもが学校に通っていると大変だと思いお聞きした。

教育長：各学校で様々な物品の指定が異なることが理由の質問だと思われる。このことが直ちに統合を意味するものではないが、参考までに、来年から揖斐川中と北和中は制服を同じものとする予定である。

（３）お礼

・　教育長より、参加者に対してお礼を申し上げる。

以上、閉会